

科目名	病気と予防				
授業形態	講義	学年	1		
開講時期	2022年度 後期	単位数	2		
担当教員	菅又 昌実				
内容および計画	あらゆる病気に対する効果的な対策は予防である。予防は治療に勝り、身体的苦痛も最小にできる。また、予防は医療費の節約等経済的にも有益である。本稿では、病気とは何か、病気はいつから認識されどのように対処してきたのかという医学史の概略をまず学ぶ。人類誕生以来病気は人類を苦しめてきた。病気は感染性疾患と非感染性疾患に分けることができるが、感染性疾患には原因となる病原微生物が存在することを知らずとなつたのはわずか 300 年にも満たない。非感染性疾患は、人類の寿命が伸びたことで食を中心とした生活習慣に依存して、呼吸器疾患、代謝性疾患、循環器疾患、脳機能低下疾患、悪性新生物（ガン）疾患、運動機能低下疾患等様々な疾病が生活習慣病として増加している。高齢者においては、感染性疾患に罹患した場合に重篤な病像を呈することは COVID-19 感染でも顕著である。疾病に対する効果的な対策を講じるためには、ヒトの病気に対する抵抗性を発揮する生物学的システムの基本を、特異的・非特異的免疫機能から理解することが必要である。同時に、病気の原因の基本的性質を理解する必要がある。感染性疾患については原因となる病原微生物の基本構造と性質を理解する必要がある。感染症の病像は、病原体と人の免疫機能とのせめぎあいによって形成される。非感染性疾患については、ヒトの生活活動について年齢別の特徴を知ると共に、環境因子の人体に及ぼす影響を把握する必要がある。人類が人工的に作り出した環境因子の種類とヒトへの作用の概略を知ることも病気の予防上重要である。疾病予防の対策は公衆衛生活動に包括されるが、その具体的な方法について、我が国が行っている様々な厚生行政による取り組みも理解する必要がある。				
1	はじめに一病気と予防をなぜ学ぶのか。基本的な考え方 One Health ヒトと微生物との共存 感染症と非感染症の実態を概観する。				
2	病気の医学史 歴史に記録された病気-糖尿病・統合失調症・小児麻痺・コレラ・ペスト・ハンセン氏病・結核・プリオン病・ガン・梅毒・他				
3	ヒトの持つ生物学的基本機能を知る。 1. 解剖生理学的機能				
4	ヒトの持つ生物学的基本機能を知る。 2. 炎症の本態－発熱・発赤・腫脹・疼痛・機能障害				
5	ヒトの持つ生物学的基本機能を知る。 3. 免疫の仕組み 非特異的免疫				
6	ヒトの持つ生物学的基本機能を知る。 4. 免疫の仕組み 特異的免疫				
7	感染症の基本像 1. 種類・病原性・病態				
8	感染症の基本像 1. 感染様式と予防の基本 病原体・感染経路・ヒト（宿主）				
9	感染症予防の基本 衛生状態の維持 清潔さを守ること－手洗い・うがい・マスク等 Universal Precaution の重要性				
10	生活習慣病の制御の重要性 成人病から生活習慣病へ				
11	生活習慣病の種類・実態と予防 1. 呼吸器性疾患・循環器疾患				
12	生活習慣病の種類・実態と予防 2. 代謝性疾患（糖尿病・肝臓疾患他）				
13	生活習慣病の種類・実態と予防 3. （ガン・精神神経疾患－神経難病・痴呆等）				
14	病気の予防における人間行動の把握－社会医学の重要性				
15	まとめ：人類の明るい未来を目指して-人口予測と地球外移住				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	健康と環境の科学 人類の明るい未来を目指して	三浦悌二・志村正子・菅又昌実	南山堂	9784525611019	2003
公衆衛生の基本的課題と対策の基本を示したものだが、教科書・参考書共に購入する必要はない。毎回の講義で教員より資料を提供する。					

参考書	(1)：国民衛生の動向 2020-2021 厚生統計協会 (2)：日本における伝染病との闘いの歴史 菅又昌見編著 医学評論社 (2010)	
成績評価		
	評価方法	割合(%)
	毎回の講義で紹介する健康についてのトピックス (15 回) に対する様々な設問に対する回答を提出する。	20
	講義 5 回目毎に 500-1000 字程度の小レポートを提出する。	30
	講義全体を通じた設問に対して 2000 字程度のレポートを提出する。	50
学習到達目標		
先修条件		
実務経験		
その他		